

## 担保・保証と銀行貸出 - 日本と韓国 -

一橋大学 清水啓典

一橋大学大学院 孫 英煥

銀行貸出における担保・保証の徴求は国際的にも一般的な慣行である。バブル崩壊による地価下落が日本の金融システムの安定性を脅かすことになった事実からも、担保としての土地が日本の貸出市場においていかに大きな役割を果たしていたかは自明である。だが一方、「銀行は担保では貸さない」という意見もある。それは担保という言葉で想定する内容が論者によって大きく異なることに由来する混乱である。理論的には担保とは、流動性をも考慮して「確実に」回収可能な金額を意味する。正確な分析のためには、「確実な」担保と慣用語としての担保を明確に区別しなければならない。

本報告の目的は、利潤最大化を追求する銀行を前提として、銀行の貸出行動は流動性をも考慮した元利合計の回収の確実さによって決まることを理論的・実証的に厳密な形で確認することにある。さらに、銀行の貸し渋りが問題となった 90 年代において、銀行の貸出行動は以前の期間と比べて変化したのだろうか、という問題を実証的に検討する。

銀行貸出と不動産担保の間に存在する密接な関係は、例えば清水(1997)など、これまでの研究でも既に明らかにされている。しかし、ここでは銀行貸出総額を対象として 1956 年から 1994 年までの長期的な関係を分析した。本報告では、1956 年から直近までの期間について、銀行の貸出行動が異なると考えられる大企業向け貸出と中小企業向け貸出に分け、期間を高度成長期、低成長期とバブル期、バブル崩壊後に区分して、また、地価は全国地価と 6 大都市地価の双方を用いてそれぞれ分析を行う。分析手段としては、回帰分析と共に相関係数、グレンジャー・テスト、インパルス応答関数を用いる。特に、変数間の因果関係を定性的に測定するグレンジャー・テストと定量的に測るインパルス応答関数による分析を通じて、銀行貸出と地価との関係を一層明確にする。

実証分析からの主な結果は次の通りである。

1. 地価から銀行貸出への影響が、バブル崩壊後の期間を除いた他のすべての期間で確認された。すなわち地価上昇期には地価と銀行貸出の間の密接な関係が見られるが、地価下落期にはその関係が確認できなかった。
2. 日本経済が低成長に入ってからバブルまでの期間では、地価と貸出の関係が大企業向け貸出と中小企業向け貸出の場合に対照的な結果が得られた。これは清水(1997)で展開された、貸し倒れ確率の異なる大企業と中小企業への銀行貸出が対照的な動きをするという理論モデルのインプリケーションと整合的な結果である。
3. より信用力の乏しい中小企業を取引相手とする信用保証協会の保証債務を用いた分析

でも、中小企業向け貸出の場合とほぼ同様の結果が得られた。特に、保証債務は地価の上昇直後ではなく、地価の貸出への正の影響が低下した時期に増加しているという特徴が見られる。

4．不動産担保付貸出が金融慣行として定着している韓国についても、銀行貸出総額と地価の関係についての分析で、日本の場合と同様の結果が得られた。

参考文献：

清水啓典（1997）『日本の金融と市場メカニズム』、東洋経済新報社